（別紙様式４―Ｂ）

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

留 学 結 果 報 告

都 留 文 科 大 学　４ 年 次
岸　菜 々 香

は じ め に

社会における博物館及び美術館の役割と美術の持つ可能性を学ぶため、イギリス、オックスフォードブルックス大学にて、２学期間にわたる交換留学を実施しました。尚、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による早期帰国に伴い、一部講義については日本からオンラインで継続履修を行いました。ここでは、1. 学習面、2. 生活面の２点より滞在先での学びを振り返ります。

1. 学 習 面

＜サイト・スペシフィック・アートの制作＞

派遣先大学では、美術史とファインアートから計８単位分に相当する基礎科目を履修し、理論と実技の双方から広く美術について学びました。中でもとりわけ刺激的であったのは、ファインアートの学科が開講する、「制作実習Ⅰ・Ⅱ」でした。この授業では、様々な素材を用いながらサイト・スペシフィック・アートの制作を行い、制作者の立場から、美術の持つ役割と意義の考究に取り組みました。サイト・スペシフィック・アートと

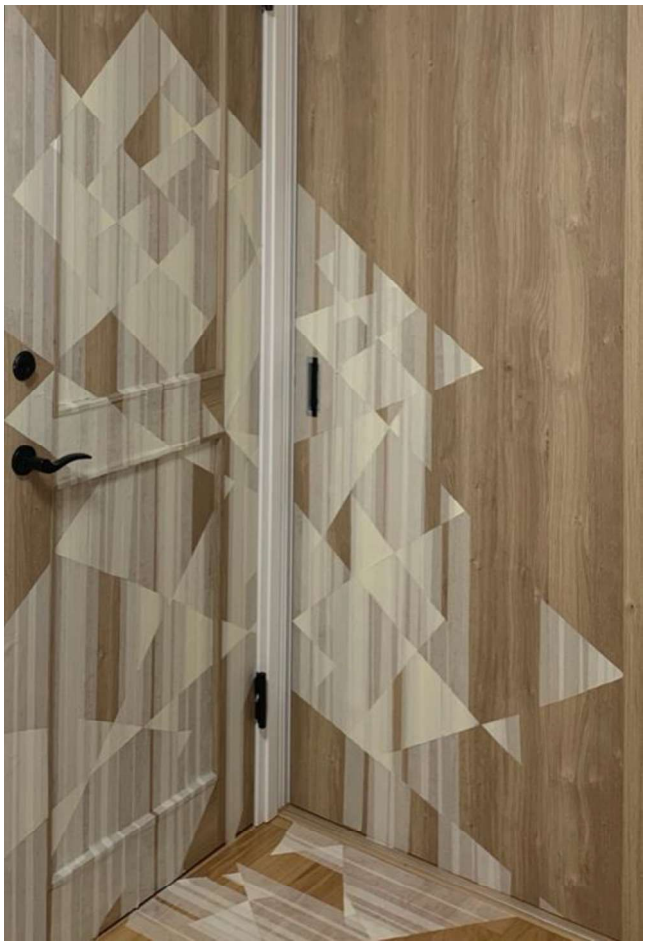
山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

▲ *アクリルガッシュを使用した初期の自主制作風景*

は、作品が位置する場の特性が考慮された作品を指します。アーティストである制作者は、作品と場の特性を考慮し、自身と鑑賞者を巡る複雑な文脈の中で作品がどのような役割を果たすのかを熟考する必要があります。よって、鑑賞者が作品へ主体的に参加できるような美術作品の制作が求められました。私は、デジタル化の進展とソーシャルネットワークメディアの普及がもたらす、人と人とのコミュニケーション形態の変容に疑問を呈すため、また、現代社会おける批判的思考の重要性を提示するため、主体である鑑賞者と客体である作品の存在認識を鑑賞者に改めて問うことを狙いに、独自のスタイルを追求しました。受講当初は、「美術＝平面芸術」という固定観念に囚われていたため、アクリルガッシュを使用した古典的な方法でこの制作意図を反映させようと試みました。しかし、鑑賞者を作品へと引き込むためには、その平面性を打破する必要があるのではないかという考えに至り、最終的には、立体空間にマスキングテープを応用させた革新的な手法に辿り着きました。この背景には、毎週授業内で設けられていたレクチャラーとの二者面談、ならびにクラスメイトとのグループセッションの存在が欠かせませんでした。ファインアートの講義では、現地の学生に加えて世界各国からの正規留学生がクラス全体に占める比率も非常に高く、多角的な視点から議論を交わすことが

▲ *マスキングテープ使用開始直後の中期の作品*

できました。英語で美学概念を説明することは容易ではありませんでしたが、先生や生徒と自分の哲学を共有できた際には、様々な背景を持つ仲間と共に学ぶことの喜びを噛みしめることができました。ページ左の写真は、私が期末課題として取り組んだインスタレーションです。鑑賞者は、マスキングテープの層からなる絶妙なコントラストとその型によって、視覚的に作品の部位特異性に引き込まれていく仕組みになっています。この作品を出展する予定であった展覧会は中止され、あいにく日本から制作を行うことなりましたが、学内のアトリエでクラスメイトと刺激し合いながら学んだ一つの軌跡がこの作品の中に凝縮されているようで、完成時には感慨も一入でした。理想的な表現を生み出すまでには想像以上の時間と膨大なエネルギーを要しましたが、デザインでも自己表現でもない、「アートワーク」を創り上げることができた経験は、留学を通して得られた大きな財産の一つです。素晴らしい学習環境の中で、制作者という新たな立場から美術の本質に迫ることができ、大きな達成感を得ることができました。



▲ *期末作品：Perception　(79×75×195cm)*

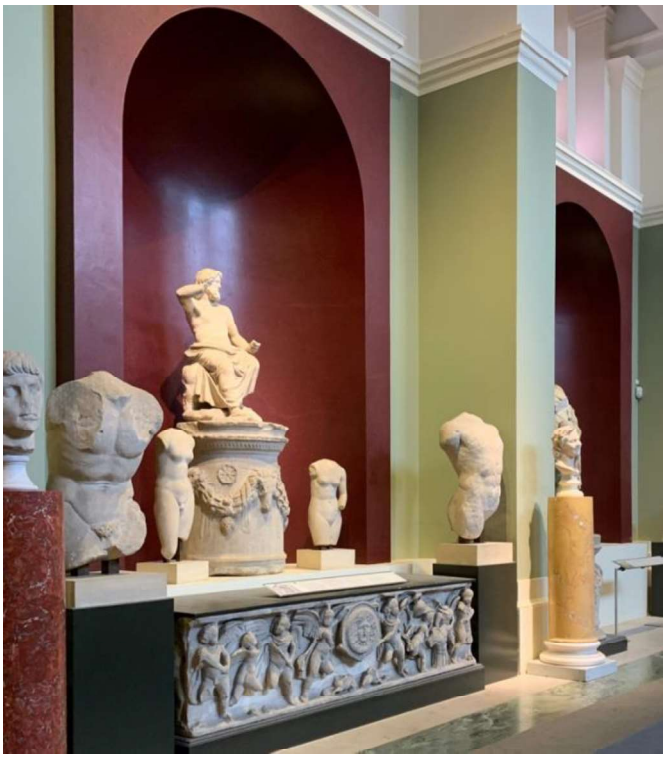
▲ *クラスメイトとの校外学習の様子*

（別紙様式４―Ｂ）

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

＜博物館・美術館での実地調査＞

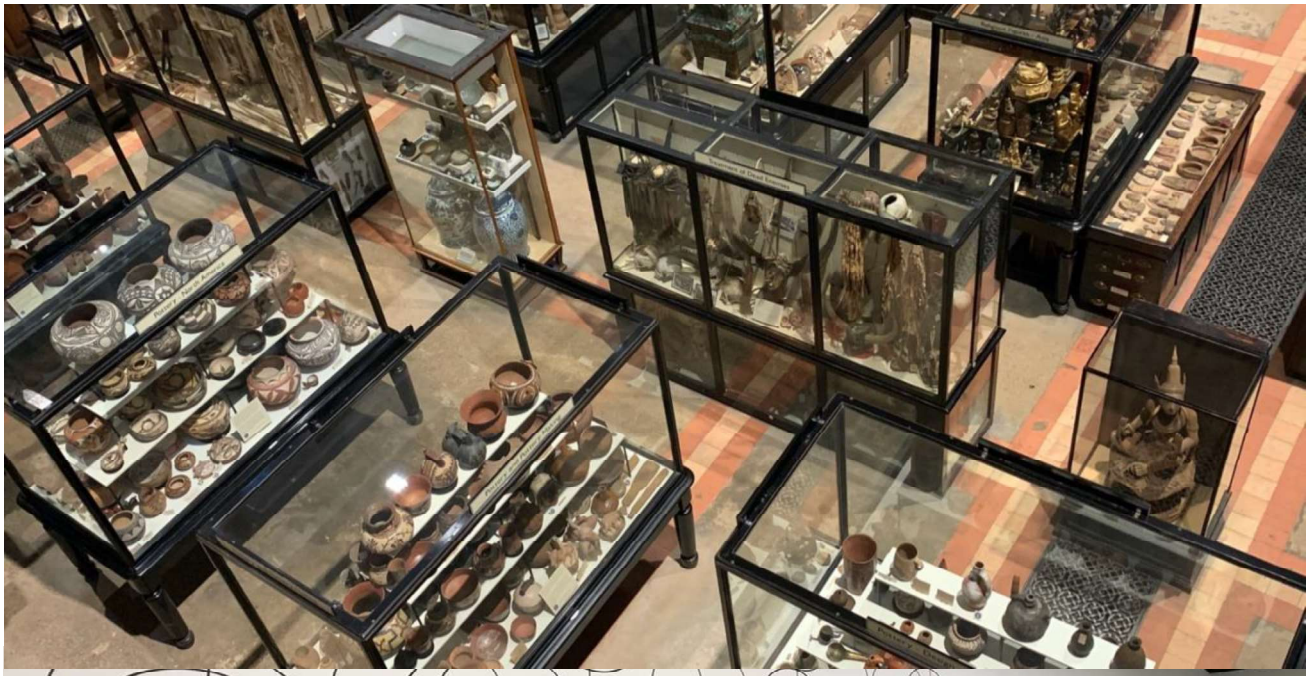
英国での滞在期間中、授業内外を通して精力的に取り組んできた活動の一つに、博物館及び美術館でのフィールドワークが挙げられます。オックスフォードの中心部には、ミュージアムの起源であるとされている「驚異の部屋」をかつて収容していたアシュモレアン博物館、オックスフォード大学の附属機関であるピットリバーズ博物館から、現代美術の企画展に特化したモダンアート・オックスフォードが集合しています。また、複数の世界的なギャラリーや文化施設を誇るロンドンへも、大学前からバス一本で訪れることができたため、講義内で学んだ理論を自分の目で確かめながら、学びを積極的に掘り下げるような機会に恵まれました。鑑賞者という立場を逸脱して、展示に潜む社会的な課題を認識できたことは、フィールドワークを実施した成果であったように感じています。例えば、博物館を巡る諸課題の一つに、文化財返還問題が挙げられます。今年はじめに物議を醸したギリシャによる大英博物館へのパルテノン彫刻の返還を求める声明がその最たる例であるよう、多数の博物館及び美術館側が、原産国から文化財の返還を幾度となく迫られています。このような事実は、ミュージアムという制度が普及し続ける限り、半ば永続的に付随する避けがたい課題であり、西洋による植民地支配がもたらした歴史的文脈の反映であるとも解釈することができます。以前は、工芸品や芸術作品が、原産地域の文化に根付いたアイデンティティーの象徴であること、あるいは儀式的な意味合いを持つ崇高な財産であることを棚に上げて、鑑賞者という第三者的な立場から、「展示品」として、陳列棚の美術作品や工芸品を眺めていました。しかし現

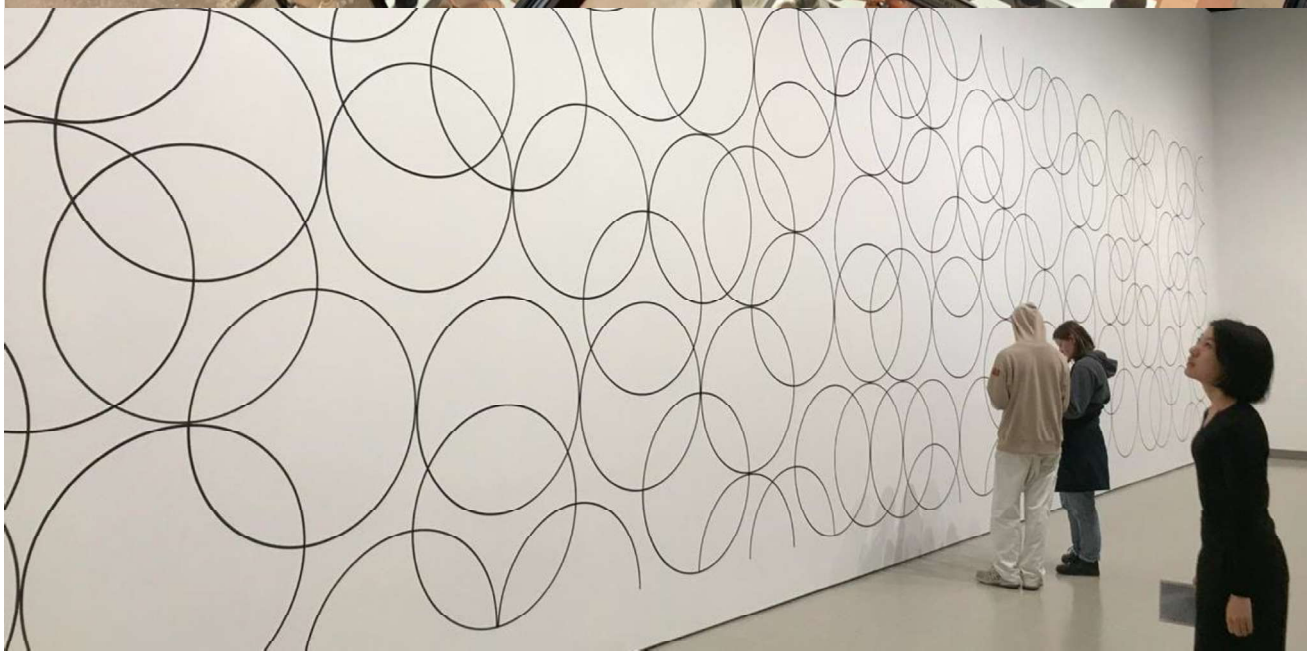


▲ *古くから残るアシュモレアン美術館の彫刻展示の様子*

在は、作品が社会に流通していた当時の時代精神や社会状況にも関心を寄せて、展示の前提となる作品の文化的意義を思索するよう、心がけています。グローバリゼーションのさらなる進展に伴い、長期的に、世界の博物館・美術館がのように脱植民地化していくのか、今後も目が離せません。

▼ *民族学的な観点から工芸品が分類されているピットリヴァーズ博物館の陳列*





▲ *ロンドン、ヘイワード・ギャラリーで開催されていた Bridget Riley の展覧会にて*

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

2. 生 活 面

＜環境への意識と食の多様性＞

▲ *野菜・フルーツ用のエコバッグの販売*

英国での短期滞在を通して、日常の至る場面から、環境と多様性への意識高い配慮を感じ取ることができました。まず１点目に、持続可能性を意識した取り組みが顕著であったことが挙げられます。食料用品店では、エコバッグの利用推進が野菜やフルーツの小袋にまで普及していた他、惣菜やお菓子の包装に紙素材のパッケージが使用されていたことや、温室効果ガスの使用量を可視化したカーボンフットプリント・マークが普及していたことも印象的でした。街中では、乾電池や衣類などのリサイクルボックスの設置や非営利活動法人によるチャリティーショップ、プラスチックが使用されている商品の不買を促すポスター等も頻繁に見かけました。日本で生まれ育ち、食料品がビニール袋やプラスチック容器で包装されていることに対して特別な違和感を抱くことがなく、資源の循環と分配について思いを巡らせる習慣のなかった私にとって、これらの光景は自らの消費行動を見直す重要な契機となりました。２点目に、様々な消費者を想定した幅広い食の選択肢が導入されていたことが挙げられます。学内のカフェテリアを含め、多くのレストランやパブが、ヴィーガン及びベジタリアンディッシュや、ハラルフードへの切り替えメニュー等、柔軟な食の選択肢を提供していました。スーパーマーケットでは、グルテンフリー、ミートフリー食材の品揃えも豊富でした。宗教上、健康上、はたまた倫理上の理由から、ヴィーガンやベジタリアンという食のライフスタイルを実践してい

る現地の友人らを通して、私自身も、留学以前には触れる機会のなかった、食肉や乳製品の消費が及ぼす気候変動への影響や動物実験の問題について関心を抱くようになりました。多種多様な価値観が往き交う環境に身を置き、命をいただくことに、改めて感謝の気持ちを持つことができるようになりました。幅広い市民がより持続可能な行動選択にアクセスできる環境整備がなされていたことに感銘を受けました。

▲ *大豆ミートを使用した自炊料理*

最　後　に

以上の通り、英国、オックスフォードブルックス大学での交換留学を通して、文化芸術や博物館学に関する新たな知見を広げることができただけではなく、進んで学ぶことの喜びと、自らの価値観と倫理観に基づいて主体的に生きることの重要性を再認識できたように感じています。振り返ると、昨年末の総選挙での保守党勝利、英国の EU 離脱、コロナウイルス感染拡大に伴うロックダウン等、大変目まぐるしい情勢におかれた英国での滞在でした。このような前代未聞の状況下であったが故に哲学的な学びも多く、何を見てどう生きていくべきなのかを改めて考えさせられました。最後に、本事業ならびに関係者の皆様のお力添えに、改めまして深く感謝申し上げます。本事業より多大なるご支援をいただき、好奇心の赴くまま学問に励みながら、始終健康的に留学を遂行させることができました。また、ご担当いただきました本県私学・科学振興課の職員の方々には、帰国に伴う変動にも柔軟にご対応いただきましたことを、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

（別紙様式４―Ｂ）

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

今後も、本事業奨学生としてオックスフォードでの学びを社会へと還元できるよう、地域と世界を見据えて、精進して参ります。